

東地区コミュニティだより

東地区コミュニティ推進協議会

編集・発行/東地区青少年協・東地区コミュニティ推進協議会 住所/十和田市大字三本木字里/沢1-240(東コミュニティセンター内) TEL 0176-24-9000 FAX 24-9003

令和二年度は新型コロナウイルス感染症対策に明け暮れた一年と云っても過言ではありません。その様な状況下のなか地域の皆さんや、何よりも子ども達の親御さんにご高齢者には大変な思いで過ごされていると思います。

本来ならば、小学校生活最後の思い出を沢山作らなければならぬ六年生は、修学旅行や運動会を感染予防対策の一環として、諸行事の規模縮小や変則的に工夫した取り組みで万全な対策を取って来たものと思っております。小原校長先生はじめ先生方のご苦労は察し余るものがあります。中学校に於きましても同様、学校や関係者から感染者が一人も出ていない。そのご苦労に対し感謝申し上げる次第です。

さて、東地区コミュニティ推進協議会といたしましても、様々な活動を中止せざるを得ない結果になった事は大変残念な思いでいっぱいですが、一方そんな中、地域の発展を思うと、全ての行事を中止して滞らせるわけに行きません。その一つとして、地区の発展を願う「東地域の将来ビジョンづくり」を皆さんと話し合いをして参りました。所謂ワークショップ(W S)です。

このことは上北地域県民局地域

連携部、十和田市まちづくり支援課、コーディネーターの「特定非営利法人なんぶねっと」四戸さんのご指導により第一・二・三回に亘って勉強して参りました。コロナ防止対策の関係上、残念ではありましたが参加人数を制限しながら(開催の案内は各町内会で見覧)、広い東小体育館でソーシャルディスタンスを取りながらのWS。今後ビジョンづくり策定の為地域の協力者(希望者)と勉強し取り組んで参ります。更に特筆すべきは、若い人達(二十代、三十代、四十代)で「地域の有志で住民参画の仕組みを考える」WSを開催した事です。(4面で掲載)この一年で五回開催し、六回目は話し合われてきた成果を地域の皆さんに対する報告会が開催されました。どこの地域でも非常に苦労している若い人達の参加に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。このことは素晴らしい事です。

今後の活動において、東地区コミュニティ推進協議会としては、コロナ禍の中どのように感染対策を考え、諸行事の開催が出来るのか創意工夫をしながら取り組んで参ります。

地域の皆さんには深いご理解とご協力をお願い申し上げます。年度末のご挨拶と致します。



コロナ禍の一年を振り返り

東地区コミュニティ推進協議会

会長 太田 薫

(一本木沢町内会長)



東小学校はこれからも常に地域と共に歩みを進め、さらに輝く学校になっていきます!

昨年一月、一部の国で発生した新型コロナウイルス感染症は瞬く間に全世界に拡大し、私達の日常生活に社会生活を一変させました。安全と言われていた学校も、常に危険と隣り合わせの状況が現在も続いています。

そのような中、実施が危ぶまれていた東小学校創立七〇周年記念式典が、昨年十一月、市長様や教育長様をはじめ県や市の議会関係者様、表彰対象者様、実行委員の皆様の見守る中で無事に行うことができました。

私は当初、コロナ以前までは、「めつたに経験できないお祝いの出来ないことでした。これらに関わる全ての皆様のご理解と応援がなければ絶対に出来ないことでした。今ここにあらためて、心から感謝の気持ちをお伝えします。本当にありがとうございます!」



東小学校万歳! 全ての皆様に感謝!

十和田市立東小学校

校長 小原 広基

「地域の若く世代」で考えてみる

田口大輔副会長を中心とした東地区に暮らしている20〜40代の住民有志が集まり、東地区で地域づくりへの若い世代の参画が進むにはどんな取組が必要か地域の若い世代と考えるワークショップ(全5回)を開催し、様々な意見やアイデアを聞き取りました。

協力:上北地域県民局地域連携部 十和田市まちづくり支援課

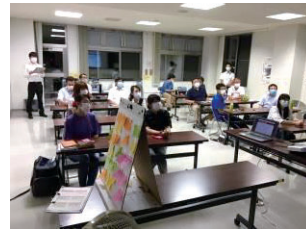
第1回ワークショップ

8月24日(月)

於:東コミュニティセンター18時30分

14名参加

- 課題「やらなければならないと思う事」
- 1、子供に関する取り組み
 - 2、若い世代に関する取り組み
 - 3、高齢者に関する取り組み
 - 4、様々な世代が関わる取り組み



第2回ワークショップ

9月28日(月)

於:東コミュニティセンター18時30分

12名参加

- 課題「少し頑張ればできることは何か」
- 1、スポーツ・健康づくり
 - 2、自然・生き物との関わり
 - 3、娯楽イベント
 - 4、住民の学び・教育
 - 5、地域の歴史・文化の継承
 - 6、環境美化
 - 7、食に関する事
 - 8、暮らしやすさの向上



第3回ワークショップ

10月26日(月)

於:東コミュニティセンター18時30分

14名参加

- 課題「住民の自発的な地域を守る取組事例の紹介」
- ・「前回の振り返りと状況の変化」
 - 1、「やれること」をA・Bチームで出し合いWS



第4回ワークショップ

11月16日(月)

於:東コミュニティセンター18時30分

14名参加

- 課題「2回目WSでAチーム提案の安全、防犯、危険箇所等の東地区マップづくりの作成」
- 1、マップづくりのWS、A・Bチームそれぞれのテーブルで話し合い
 - 2、マップづくりの具体的な企画(やることは、誰が、いつ、どうやって)

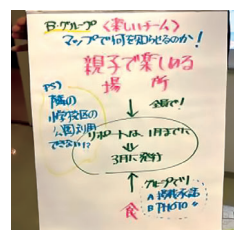
第5回ワークショップ

11月30日(月)

於:東コミュニティセンター18時30分

10名参加

- 課題①「若い人達が、自分達のまちの事を考え、企画・実行していくために何が必要か」
- 1、地域住民が地域の未来について、思いやアイデアを共有する機会づくり。
 - 2、若い世代が地域活動に関われる時間づくり(忙しさの緩和等)
 - 3、多世代が親睦を深める取組の充実。
 - 4、一緒に活動できる仲間と知り合う機会(きっかけ)づくり。
- 課題②「第4回に話し合われたマップづくりの具体化へのWS」
- 1、前回のWSでの危険箇所の画像披露その理由を共有
 - 2、はなしあいのなかで自分達に出来ることは小中学生の通学路の危険防止
 - 3、公園等、親子で楽しめる個所のマップ※マップの作るデザインについてはおぼろげながらも参加者に見えてきたが、焦らず一つ一つ進めていくことで一つの成功体験にもなると考えます。



令和2年度 市への要望・回答

東地区コミュニティ推進協議会

事務局員 熊谷 羊二

要望1 東二十二番町の水野元市長宅の東側市道(県道十和田田下三沢線T字路)を広げることと、その道路の北側の交差点の拡幅と稲生川に架かる橋を広げて右折レーンを設置していただきたい。



市の回答 市道の拡幅は地権者の同意が必要です。この場所は交通体系の見直しも併せて、住民のご理解ご協力が不可欠ですので、今後実現に向けて調査して参ります。(来年度以降検討)

要望2 ひがしの一丁目1番地先の道路を広げていただきたい。この道路は幅4メートルと狭く、車両の交差が厳しい。近年、三沢・十和田線を利用する車両が渋滞を避けてこの道路を利用して交通量が増えている。特に冬場は路肩の積雪で道幅が狭く、児童等の歩行が危険である。

市の回答 この道路は、都市計画道路の計画路線でもあるので、今後整備方針について調査していきたい。(来年度以降検討)

東地区コミュニティの未来ビジョン

協力：特定非営利活動法人「なんぶねっと」
上北地域県民局地域連携部 十和田市まちづくり支援課

今年度は、第1回〜第3回迄勉強会を開催しました(回覧で案内)

第1回勉強会

期日 令和2年11月18日(水)
18時30分〜20時30分
会場 東小学校体育館
参加者 13名
十和田市まちづくり支援課2名

「将来ビジョンをつくる理由(わけ)」 【講義】

特定非営利活動法人なんぶねっと
四戸 泰明
はじめに、「みなさんの地域の将来ビジョンを知っていますか?」の質問から勉強会が始まりました。この質問の答えは市町村行政で策定する「総合計画」、十和田市にももちろん十和田市総合計画があり、そのビジョンの達成に向けて行政施策が進められています。このビジョンを市民が共有することが大切で、さらに行政がやることと住民主体でやることの両方によって地域がより良くなっていく、そのために住民が目指す将来ビジョンづくりが必要だということでした。



「将来ビジョンをつくる理由(わけ)」は、地域の課題解決に向けた住民主体の公益な取り組みを具体的かつ明確にし、行政と共有することによって、行政が支援するための根拠、その地域に住む市民が共に協力し取り組む意義を成すということであり、将来ビジョンがあることによって、1. 行政も地域への支援の根拠を持てる(すなわち、それが交渉の決め

手にも)、2. 住民も一緒に地域で協働しやすい、3. みんな(官民学など)の方向性が合う、と利点があり、そして地域に住む住民がそれぞれの立場の垣根を無くし、共に地域をつくるという価値が生まれると説明。

将来ビジョンをつくるという過程においても、地域課題の共有はもちろん、いろいろな意見、考えの集約・まとめ、異なる業種間(各種分野)のつながり、幅広い年代、世代の交流など数多くの人それぞれ思いや人生を背負いながら同じ地域をつくるという大きな意味を成すということでした。

その後、事例紹介として、一般社団法人七和まちづくりネットワーク専務理事の飛嶋猷氏から五所川原市の七和地区の地域での取り組みについてご紹介いただきました。

そもそもその始まりは平成26年4月に人口減少に対応した地域コミュニティ活性化施策等説明会へ参加したことをきっかけに、自分たちでやるしかない動きやすい有償ボランティア組織「暮らしの応援隊」が主体となって進め、その後事業を実施しながら住民協議会や地区の社会

での取り組みについてご紹介いただきました。その後もその始まりは平成26年4月に人口減少に対応した地域コミュニティ活性化施策等説明会へ参加したことをきっかけに、自分たちでやるしかない動きやすい有償ボランティア組織「暮らしの応援隊」が主体となって進め、その後事業を実施しながら住民協議会や地区の社会

「将来ビジョンづくりの方法」 【講義】

特定非営利活動法人なんぶねっと
四戸 泰明
今回がまとめとなる第3回勉強会では、前半に将来ビジョンづくりに向けてと題して実質的な将来ビジョンづくりの場となる合同会議の内容結果を全体で共有し、後半部分で将来ビジョンづくりを前提とした行動計画について参加者が話し合う内容で開催されました。

将来ビジョンづくりを話し合う場が合同会議であり、その会議には産業振興、子育て・教育、生涯学習・スポーツ・文化、健康・福祉、安全・安心、環境の分野で東小学校区に関わるであろう方々に集まっていたら、現在の状況と将来ビジョンに向けた展望や協働できることについてまとめることができました。それにより、今後、将来ビジョンづくりを進めるにあたり、即戦力となつてもらえるようにアプローチをかけ、会議への参加協力はもちろん、ビジョンづくり後の事業や活動における協働や課題解決のための事業実施主体としての参画の可能性を高めることができました。

勉強会の後半部分での話し合いでは、参加者が行動計画案をたたき台にして意見、考えを出していき、人材とお金の必要性は高く、特に人材不足が課題だとされ、また将来ビジョンづくりを進めるために必要な事務的な業務を誰が担うのかという点が最も大きな課題として挙げられました。(中略)

第3回勉強会

期日 令和3年2月22日(月)
18時〜20時
会場 東小学校体育館
参加者 15名
十和田市まちづくり支援課1名

が重要だとし、その方法を紹介します。アンケート調査や地域座談会等の開催などの方法によって地域課題をより多くいろいろな立場、状況の住民から集めることが大切だとしました。その後、グループごとにトーク&ワークが行われ、地域課題の把握方法や行動計画の素案をたたき台にして参加者で意見や考えを出し合い、参加者からは「地域課題の把握として、全町内の毎戸配布でのアンケート調査は各家庭の考えや地域でやってほしいこと、年代ごとの声や異なる悩みを把握する方法としては理想的であるが、全世帯数を考えると難しい。そこで全22町内をブロックに分けて、そのブロックごとに調査するなど工夫が必要だ。」など具体的な方法の提案などもありました。

今後、将来ビジョンづくりをしようとする自主的自発的に住民が主体となつてこの地域のためにスタートできればと願います。



勉強会の後半部分での話し合いでは、参加者が行動計画案をたたき台にして意見、考えを出していき、人材とお金の必要性は高く、特に人材不足が課題だとされ、また将来ビジョンづくりを進めるために必要な事務的な業務を誰が担うのかという点が最も大きな課題として挙げられました。(中略)

(2020年12月10日) **当コミュニティがデーリー新聞に掲載されました** (2021年1月18日)

一本木沢町内会が「町内会探訪」で掲載

自作ねぷたや花火 活動盛ん

町内会探訪

戦後入植者が一から開拓

町内会探訪

戦後入植者が一から開拓

町内会探訪

戦後入植者が一から開拓

「警察協力功労者」として感謝状授与!

十和田 警察協力者 功績たたえる

十和田警察署(半澤一人署長)は1月28日、十和田市のサン・ロイヤルとわで警察協力功労者感謝状贈呈式と優良警察職員表彰式を行った。感謝状贈呈式では19団体と13個人、表彰式では優良警察職員16人の功績をたたえた。

警察協力功労者は次の通り。(公表を希望)

北支部 十和田第一病

十和田警察署(半澤一人署長)は1月28日、十和田市のサン・ロイヤルとわで警察協力功労者感謝状贈呈式と優良警察職員表彰式を行った。感謝状贈呈式では19団体と13個人、表彰式では優良警察職員16人の功績をたたえた。

警察協力功労者は次の通り。(公表を希望)

北支部 十和田第一病

私たちが暮らしている地区が住みやすく楽しい地域となるような「将来の姿」を考えてみませんか

第2回勉強会

期日 令和2年12月16日(水)
18時〜20時
会場 東小学校体育館
参加者 14名
十和田市まちづくり支援課1名

「将来ビジョンづくりの方法」 【講義】

特定非営利活動法人なんぶねっと
四戸 泰明
前回の内容を前提として、将来ビジョンづくりの方法と行動計画づくり(住民がやること)を学ぶ勉強会としました。

まず将来ビジョンづくりに必要な予算把握したり、策定会議を開いたり、将来ビジョンをまとめた成果物を印刷し、配布したり...とそれらにはいろいろな経費がかかります。やり方によっては経費無しでも作れますが、作るみんながボランティア的に協力しなければ策定できないという高いハードルとなります。地域課題の把握でも地域の座談会などに足を運んで、住民から聞き取りするなど手間と時間をかければ可能ではありますが、かなり労力が必要です。その労力を省力化するためにもある程度の予算があるとスムーズに進めていくことができるようになるということでした。

今後、将来ビジョンづくりを進めるにあたり、即戦力となつてもらえるようにアプローチをかけ、会議への参加協力はもちろん、ビジョンづくり後の事業や活動における協働や課題解決のための事業実施主体としての参画の可能性を高めることができました。

その後、事例紹介として、一般社団法人七和まちづくりネットワーク専務理事の飛嶋猷氏から五所川原市の七和地区の地域での取り組みについてご紹介いただきました。

その後もその始まりは平成26年4月に人口減少に対応した地域コミュニティ活性化施策等説明会へ参加したことをきっかけに、自分たちでやるしかない動きやすい有償ボランティア組織「暮らしの応援隊」が主体となって進め、その後事業を実施しながら住民協議会や地区の社会

町内会探訪

戦後入植者が一から開拓

町内会探訪

戦後入植者が一から開拓

町内会探訪

戦後入植者が一から開拓